

令和2年度 授業改善推進プラン

府中市立浅間中学校

令和2年9月作成

令和2年度 授業改善推進プラン全体計画

府中市立浅間中学校

教育基本法
学校教育法
学習指導要領
東京都教育委員会教育目標
府中市教育委員会教育目標
第2次府中市教育プラン

教育目標
○互いにいつくしみ 高きをめざす
○行いはさわやかに 思いやりはやさしく
○からだを鍛え 責任を果たす

保護者・地域の期待
○基礎学力の定着・充実
○良好な人間関係
○地域の一員としての自覚

目指す学校像
○生徒が心を開く学校
○教職員が開く学校
○保護者・地域が開く学校

学力向上にかかわる学校経営方針
「分かる授業、深く考える授業、認め伸ばす授業を行う」
○少人数・習熟度別指導の実施（数学科・英語科）
○小学校との連携（生徒・教師・保護者）
○校内研修、研究授業の実施
○一時間の授業を大切にす授業規律の徹底
○外部の人材活用
○言語活動を重視する教育活動の展開

各教科の指導の重点
○基礎・基本の徹底とその活用を図り、思考力を育成する学習活動の充実
○言語活動の充実
○分かる授業の工夫
○個に応じた指導の手立ての工夫

＜本校における確かな学力の考え方＞
生徒一人一人に学ぶ喜びと意欲をもたせ、主体的に学ぶ力を身に付けさせる。
○生徒に基礎的・基本的な内容を徹底して教え込むとともに、言語活動を充実させて思考力、判断力表現力の育成を図る。
○生徒の個性を生かした授業実践を通して、更なる個性伸長を図る。
○体験的な活動を授業に取り入れ、外部の人材を活用するなどして生徒の興味・関心の高揚を図り学習意欲を喚起する。
○授業規律の確立、指導方法の工夫改善を図り、魅力ある生徒主体の授業を展開する。
○予習・復習の家庭学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。
○学習に遅れがちな生徒に対する指導を年間を通して計画的に実施し学力向上を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点
○学習活動に主体的・協働的に取り組もうとする「態度」
○社会の中で生きて働く「知識及び技能」
○未知の状況において活用できる「思考力、判断力、表現力」

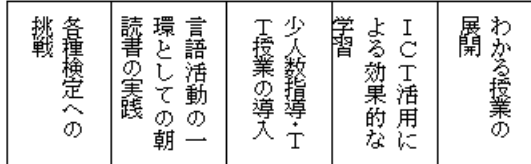
進路指導の重点
○自己の特性の理解
○将来への夢を育てる体験的・啓発的活動の充実

道徳教育の指導の重点
○道徳的判断力・実践力の育成
○「特別の教科 道徳」の授業を要とし、「考え、議論する」道徳への質的転換の推進

特別活動の指導の重点
○自ら学校生活・学級生活の向上に努める態度の育成
○学業の充実に関するガイダンスの工夫

生活指導の重点
○基本的な生活習慣の定着
○規範意識の涵養
○自主的、実効的な態度の育成

特別支援教育の重点
○生徒一人一人の教育的ニーズへの対応
○ユニバーサルデザインの授業の視点



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	学習評価の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○全教科で言語活動を導入した授業展開を工夫する。 ○個に応じた指導を充実させる。 ○数学・英語で少人数習熟度別授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜日に授業を行い、授業時数を確保する。 ○朝読書を実施する。 ○基礎補充教室、考査前や長期休業日の学習教室等を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業を実施し、教科指導力の向上を目指した研修を充実させる。 ○計画的に研修を実施し、若手教員のOJTを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別評価を適切に実施し指導の改善に生かす。 ○学習評価、授業評価アンケート、学力調査等を分析し指導に反映させる。 ○生徒や保護者に対して学習評価に関する情報を積極的提供提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習題等の課題を与え、家庭と連携し学習習慣を確立する。 ○学校行事やボランティア活動、授業公開を通じて小学校、地域と広く連携する。 ○便り、HP等により広報活動を充実させる。
授業改善の方策（各教科の共通理解として）				
<ul style="list-style-type: none"> ○授業者は教室において始業のチャイムを聞く。（授業の終わりのチャイムとともに） ○導入5分の工夫をする。（<u>学習の目標・ねらいを明示し</u>、興味・関心を引き出す） ○発問の工夫をし、学習の深まりをつくり出す。 ○生徒一人一人の表情を見取り指導する（分かった、分からない、退屈した、考えている等それぞれの表情） ○ICTの活用方法について研究する。（<u>教材提示に効果的か</u>、生徒の興味・関心が高まるか） ○思考力・判断力を育成するために、生徒主体の対話的な学習活動を取り入れ、深い学びに結びつける。 ○授業の終わりには、その時間に行った授業のまとめや確認をする。 				

教科名(国語)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
<p>○小学校期間を含めると約3か月間の休校期間であったが、授業・定期考査ともに大きな混乱はなく進んでいる。授業は毎回冒頭に10分間に同じ課題を出すことでパターン化し、知識の定着と授業の円滑化を図っている。</p> <p>●課題の提出率は1年次にしてはよくない。概ね同じ生徒となりつつあり、全ての教科で提出率が低いということが共通している。</p> <p>□新出漢字の書き取りを確認することで、細かいミスなどを指摘できている。また、同時に意味を調べることで、定着するようにしている。</p> <p>■小学校1年生の漢字からやり直しているが、1年生でおおよそ4分の1、2年生でおおよそ2分の1の生徒が未定着である。長期間かけ、知識の再履修を図っていく。</p>	<p>●基本的な家庭学習習慣の定着</p> <p>■追試を設け、毎月のテストで知識の定着を図っていく。</p>	<p>○授業のパターンや単元のねらいの見通しをもたせた授業づくりを進めていく。定期的な課題や休校も想定した課題について、臨機応変に対応できるように準備をすすめる。</p> <p>●提出物は家庭学習の定着化にもつながっていく。実力差に関わらないものであることや、課題をこなしたことに対する成果が見えやすいものに工夫する。また、教科や学年などで働きかけていく。</p> <p>■基礎知識が身に付くように、小テストを重ね、習熟度に応じた対応をしていく。</p>
<p>○昨年度、「授業のねらい」について始めに確認し、最後に学習内容の振り返りを行うことで授業の定着を図るパターンで授業を組み立ててきたので1時間の授業の流れについては生徒に浸透している。</p> <p>○課題に対する取り組み、課題の提出状況についてはおおむね良好である。</p> <p>●1学期期末考査において「読む能力」に関する出題の正答率は約68%、「言語についての知識・理解・技能」に関する出題の正答率は約66%であった。</p> <p>□課題作文や浅間作文などにしっかり取り組む生徒は多いが書くことを苦手と感じている生徒も多いので1年生のときと同様、苦手なものに積極的に取り組み、克服できるよう、地道な指導を心がけたい。</p> <p>■漢字テストの結果を見ると、よく勉強している層と学習が足りない層との差が大きい。いわゆる二極化になっている。</p>	<p>○基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。</p> <p>●文章を丁寧に読み取っていく。語句の意味調べを徹底する。</p> <p>■漢字については何度もしっかり書いて、覚えてしまうように学習に取り組みさせる。</p>	<p>○授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。</p> <p>○未提出の生徒に対しては、今後も声掛け、放課後の補助学習によって支援を続けていく。</p> <p>●文章をじっくり読み、問題演習に取り組む時間を保証する。単元の初めに、自分が意味の分からない語句の意味調べ学習を課題にし、習慣化させる。漢字練習の時間を授業内で10分は確保していく。副読本、プリントを使用した文法の既習事項の徹底。</p> <p>□序論・本論・結論などの文章構成をしっかりとらえて、書くことを意識させたり、文章をまとめたりする活動を増やす。</p> <p>■前年度からの生徒の学習習慣にも配慮し、小学校の漢字に関しては、低学年の段階から復習に取り組む。自ら辞書を使って語句を調べる場面を設定する。</p>
<p>○「授業のねらい」を明確にしてから授業に入るという流れで、授業を進めている。また、授業の最後には「振り返り」をして学びのスタイルを確立させている。</p> <p>○「書くこと」に対する指導を丁寧に行った。「浅間地区作文」に対する作文指導は早くから取り組んだ。スピーチ発表の後には、生徒一人一人に批評の文を書くことで評価する力の育成を図った。俳句・短歌の創作にも取り組んだ。</p> <p>●提出物の提出状況は概ね良好であった。多くの生徒が課題に真面目に取り組んでいる反面、未提出のメンバーが固定している点は課題である。</p> <p>□俳句・短歌創作や作文の場面で言葉への関心が高い。</p> <p>■少人数のグループを使っての話し合い活動を今は実施していないため、生徒同士の意見交換や気軽に感想を言い合える場が設定できない。</p>	<p>○学ぶことを明確化することで学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。</p> <p>○「書くこと」に対する意欲を高める場面を工夫する。</p> <p>●語彙力を高めるための工夫に毎時間取り組む。</p>	<p>○授業への導入を工夫することで、生徒の意欲・関心を高める。意識的に首読の時間を取り、耳からも国語学習への意欲を高めていく。</p> <p>○「書くこと」に対する取組を1年や2年の頃より重視してきた。新型コロナウイルスによる休校の関係でプリントによる課題を出した。その際、作文の書き方をテーマとした課題を用意した。一人一人にアドバイスのコメントを記入した。授業再開後、それを使いながら指導した。今後きめ細かい指導に取り組む。</p> <p>●提出が遅れ気味の生徒に対し、粘り強く声掛けをして学習に取りまかせて提出物を期日に出せるよう指導していく。</p> <p>□歌会を開催し、学年だよりにより作品を紹介することにより発表の場を増やしていくことで更に言葉への関心を高める。読書記録の「チャレンジマップ」、朝読書時間の読書記録である「朝読カード」などを使い読書を推奨していく中で、語彙力を高める。季節感のある言葉を随時紹介する。</p> <p>■少人数の話し合いが難しいので、書く場面を増やし、それを使うことで個々の意見や感想を共有していく。</p>

教科名(社会)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○定期テスト、単元テスト、授業の振り返り欄から判断すると、社会科、授業に対する関心・意欲は高く、基礎的・基本的な知識はわりと定着している。</p> <p>●資料を活用する技能や思考・判断についてはあまり伸びていない。これは、本来、授業の中でグループワークでクラスメイトの意見を聞いたり、自分の考えを述べたりする中で養われるはずの力が、グループワークができていないことによって十分に培われていないのではないかと考えられる。</p> <p>□自分の意見をまとめる時間を毎時間確保し、代表者の全体発表を行ったり、時間や形態に注意して若干のグループワークを行ったりする中で相手に意見を伝えることが少しずつ上手になってきている部分がある。</p> <p>■言語活動に関する課題としては、やはりグループワークが十分に行えないため、例年に比べて成果が乏しくなっている。</p>	<p>○引き続き導入、復習に力を入れ、社会の授業に意欲的に取り組めるように工夫する。</p> <p>●授業プリントの中で資料を活用する問題や思考を問う問題を増やし、少しでも意見交換ができるようにする。</p> <p>□引き続き全体発表や少人数での発表を行う。</p> <p>■工夫した形で言語活動の充実を図る。</p>	<p>●授業改善の重点に書いた「資料活用の技能」「社会的思考・判断」の観点の力を養うこと、言語活動の充実を図ることについて2学期からすぐにICTを活用し、プロジェクターとプレゼンテーションソフトを活用して授業を行う。1学期はICT環境が整っておらず、資料を十分に活用しきれず、不本意な授業となってしまった。教室のICT環境が整ったので、プレゼンテーションソフトを活用し、資料を全体で見ながら考えたり、発表したりする時間を取り、課題を克服していきたい。</p> <p>■ICTを活用し、資料を見て考え、それを全体や少人数集団で意見を出し合う活動を行いたい。また、社会情勢を見て、グループワークも積極的に導入し、言語活動も充実させたい。</p>
2年	<p>○定期考査の結果を分析すると、昨年度の課題であった思考・判断・表現の観点では大きな成長が見られた。日々の授業での発問やワークシート、単元テストの成果が反映されたと考えられる。</p> <p>●技能の観点は、資料に対する見方・考え方の指導が不十分だったことが考えられる。知識・理解の観点は、授業中に覚えるべき重要語句を伝えたが、勉強の重点の置き方が不明瞭な生徒が依然として多いことが考えられる。</p> <p>□休校中の課題を通して、自分の考えを言葉にして正しく伝えること、そして自分の意見が反映・共有される経験をもたせることで充実した取り組みになったと考えられる。その経験をもとにどのようなようにしたらさらに良くなるかと深く考えられる生徒も増えてきている。</p> <p>■授業中のグループワークを行っていないため、生徒同士の意見交換や探究活動は不十分になっている。教師が仲介して生徒の意見を相互に伝えているが、授業形態の工夫が難しい。</p>	<p>○ワークシートや単元テスト、定期考査を活用して力をつける。</p> <p>●資料に対する見方・考え方をていねいに指導し、練習を重ねられるようにする。授業への臨み方もあわせて指導する。</p> <p>□自分の考えをもつこと・示すことの重要性を伝える。他者の意見から学ぶ。</p> <p>■受け身にならず積極的に授業に関わる仕組みづくりを意識する。</p>	<p>○授業での発問や文章を書く時のポイントを示すことは今後も意識して指導していく。自分の取り組みを言語化し、振り返ることで定期考査を分析させていきたい。</p> <p>●資料に対する見方・考え方の指導が不十分だったことを踏まえ、その資料のどこに注目するのか、そしてその資料から分かったことをどう表現するのかについて重点を置いて指導する。各教室にあるプロジェクターと電子黒板機能を活用していきたい。</p> <p>□自分の考えを言葉にして正しく伝えることは継続していく。生徒1人ひとりの声を社会科通信等を活用し、反映・共有することは大きな成果となった。他者の意見から学ぶことも非常に多かったようなので続けていきたい。</p> <p>■自分の考えを文章で示すことには慣れてきたが、生徒同士で意見交換をしたり、授業内で発言することには消極的である。授業も受け身になっている生徒も多いため、2学期以降はグループ活動も取り入れ、積極的に取り組む姿勢を育てていきたい。</p>
3年	<p>○3年間社会科を教え続けている為、授業の雰囲気もよく取り組んでいる。発言はしないが、発問に対して自分の答えを書いて挙手をするという授業スタイルが確立しつつある。言語活動が十分できない中、教員が動くことで生徒の書いた表現を確認し、考えを表現する機会を確保している。</p> <p>●社会的知識が3年生になって増える中で、生徒自身の1つ1つに対する知識の整理が不十分である。</p> <p>□1年生から自分の考えを表現することを意識して取り組んでいたが、1学期期末考査の思考判断表現の観点が達成率が高かった。</p> <p>■学力テストを分析すると、質問をきちんと読み取れず、聞かれていない点を答えてしまっていることがあった。</p>	<p>○授業作り、発問の工夫</p> <p>●ワークシート作りの工夫</p> <p>□思考・判断の小テストを行い、さらに生徒の思考力の育成を図る。</p> <p>■テストの振り返りを行う。</p>	<p>○言語活動が不十分な中でも、言語活動ができるように書く表現を充実させる計画を立てていく。2学期から始まる公民分野では、単純な質問ではなく、生徒がさまざまな視点から物事を考えられるような発問を工夫していく。</p> <p>●知識量が増えている中で、単元ごとに振り返りを丁寧に行う。また、ワークシート作りにおいて、知識を整理ができるような項目を設ける工夫をする。</p> <p>□思考・判断の小テストを行った際には、きちんと振り返り・解説を行う。また、思考判断力だけではなく、文章で表現することも丁寧に指導していく。</p> <p>■テストの解説を行う際、質問を読んでから解いたり、質問文のポイントに線を引くことを指導する。</p>

教科名(数学)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○基礎基本を定着させていくことができ、第1回定期考査では平均点77点と高い水準となった。</p> <p>●文字式や方程式の単元に入るにあたって、生徒の学力差が大きくなってきている。</p> <p>□定期考査で自身の考えを記入する問題では、非常に多くの生徒が記入することができており、白紙の生徒が少なかった。</p> <p>■数学用語を適切に使って自身の考えを発言したり、考えたことを説明することができない生徒が多い。</p>	<p>●基礎基本が定着できていない生徒への支援</p> <p>■数学用語を使った説明に慣れ親しませる。</p>	<p>○ねらいとまとめを明確にさせた授業を継続的に行うことができたことが基礎・基本の徹底に繋がったと考えられる。</p> <p>●定期考査1週間前に、質問教室のほか補習教室も実施する。</p> <p>□授業の中で、解答だけでなく、どのように考えたのか自身の考えをノートに記入する場面、発言する場面、周りの考えを聞き深め合う場面を設けたことが、自身の考えを持つことに繋がったと考えられる。</p> <p>■数学用語の意味を授業の中で適切で理解させる。数学用語を適切に使った説明をしている説明の良さを実感させる。自身の考えをノートに記入したり発言したりする際は、できるだけ数学用語を使うように指導する。</p>
2年	<p>○授業のねらいや本時の流れなどを授業の始めに示すことで、学習内容の全体像を掴むことができた。</p> <p>●ICT機器が導入されたことをきっかけに、電子黒板などの活用を通じて、板書時間の短縮による授業効率の向上を図る。</p> <p>□日常生活に関連する応用問題を多く取り入れ、数学の実用性を感じ、数学に対する興味・関心が高まった。</p> <p>■グループの話し合い、学び合い活動を充実させる必要がある。</p>	<p>○更に基礎・基本を定着させるために、授業の振り返りの時間の確保</p> <p>●ICT機器の活用</p> <p>■発問の工夫</p>	<p>○授業の終わり5分に、本時のまとめや振り返りを行う時間を作る。最後に質問タイムを設け、生徒から出た疑問を解消するようにする。</p> <p>●ICT機器を使って教科書の図表のコンテンツを示し、分かりやすく、効率的な授業展開を行う。問題の演習時間や振り返りの時間を増やす。</p> <p>■生徒がその授業のねらいを深めたり、広げたりすることができるような発問を工夫し、個々に考えた後、話し合い活動を行うようにする。多くの生徒が発表・表現する場を設ける。数学に対する思考力の深化を図る。</p>
3年	<p>○授業の最初に本時の学習内容と関係のある内容の復習を行うことで、生徒が自ら考えて新しい課題に挑戦するような学習形態を確立させている。</p> <p>●ICT教材を活用することで、生徒に見やすい資料を提示することができる反面、板書とのバランスに課題があり、生徒の数学の理解にはなかなかなかつなげることができていない。</p> <p>□生徒に自分の解き方や考え方を記述・発表させ、考えを表現させる機会を増やした。</p> <p>■前述したように自分の意見を持ち、発表することには慣れてきたが、見たもの、聞いたものを数学的に表現することを苦手としている生徒が多い。</p>	<p>○今後も復習を導入とすることで、生徒が考えやすい授業を実施する。</p> <p>●研修に参加し、実際に活用することで、効果的な活用方法をスキルアップする。</p> <p>□考え方を記述させ、発表させる活動を今後も実施していく。</p> <p>■教材を工夫し、実物や場面を想像しやすい課題を準備する。</p>	<p>○導入に復習を取り入れた学習を継続して実施していく。また、取り組む課題を習熟度に応じさせ、より効果的に実施していく。</p> <p>●初めに、教材会社等のコンテンツを活用し、ICTの活用方法を学び、実際に利用し、生徒の反応を見ることでICT活用の有用性を実感する。</p> <p>□小集団における発表を適宜取り入れ、生徒が自分の考えを発表する機会を増やし、数学的に考える力を伸ばしていく。</p> <p>■数学への関心や思考力を身に付けるために単元の導入・章末で、生徒の生活に馴染みある課題を準備する。また、考えた内容をペアワークやグループワークで生徒間で説明する時間をとることで、数学を使って表現することや表現されているものに触れる機会を多く授業に取り入れる。</p>

教科名(理科)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○ 1年理科の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立 ・学ぶ姿勢と考え方 ・学級で成長する授業 <p>● 1年理科の課題</p> <p>1 目的、目標 Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の指導計画の改善、絞り込みをする。 <p>2 教材・学習課題 Task</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主発問と学び合いについて工夫する。 <p>3 学習の流れと場の構造 Structure</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い、言語活動の充実 □■ (コの字型机配置の授業) ・個の確立 □■ (自己評価の導入・個の変容を捉える) <p>4 評価Assessment</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導と評価 	<p>●</p> <p>1 目標の精選</p> <p>2 発問の工夫</p> <p>3 机配置を工夫して行う話し合い活動と生徒の個の学びの検証</p> <p>4 自己評価の導入による評価の改善</p>	<p>●</p> <p>1 目標の精選と</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に資質、能力について触れるようにする。 ・思考、判断、表現を伴う発問の工夫。 <p>2 発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとに山場を設けられるか。 <p>3 机配置を工夫して行う話し合い活動と生徒の個の学びの検証。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いになる展開と個による学びの時間の確保 <p>4 自己評価の導入による評価の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔な方法で、自己評価を行う。1時間ごとの振り返りと単元ごとの振り返り。個の変容を捉える。
2年	<p>①定期考査の結果と授業の様子から</p> <p>○観点別の得点率は思考・表現が46%、観察・実験の技能は57%、知識・理解が68%となった。</p> <p>○ワークシートに追記する形で授業内容をまとめる形式を実施したため、知識・理解の正解率は高かった。</p> <p>■授業中のグループワークの時間が少ないため、生徒同士の短時間の意見交換程度で、考えをまとめたり、課題を解決する学習が不十分になっていて、思考力を高める機会が少ない。</p> <p>●授業では理解できていても、数日後の小テストや定期考査では授業内での演習ではできていたことが正答しない場面もある。家庭での復習ができていないという課題がある。</p>	<p>■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の目的の明確化 ・書く表現活動を増やし、書いたものを共有 <p>● 家庭での復習を促す。</p>	<p>■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の目的を「お互いの考えを知る」、「考えをまとめる」、「課題を解決する」の三段階で明示する。生徒の自由度のある課題設定の工夫、日常生活と結びつけた話題を提供する。 ・授業前後の課題への考え方が分かる記入欄を設け、前後の変化がわかるようにする。 <p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストの範囲の明確化と前週に実施時期を知らせ家庭学習できる時間を確保する。 ・eラーニングを活用し、基礎的知識の定着を促す。
3年	<p>○授業に対する意欲がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60点以上を想定したテストでの平均点は65点であり、定期考査や小テストなどの対策をしっかりとやっている生徒が増えつつある。 ・実験に対しての意欲はとて高い。 ・観察実験の、技能も高い。 ・1, 2年の復習も計画的に進めている生徒が多い。 <p>●授業があった日の復習を宿題としているが十分にできていない生徒がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年の復習を計画的に進める指導をしたが、計画的に進めることができていない生徒もいる。 ・教科書の内容には関心が高いが、そこから日常生活と科学的に結び付けて考えることについては興味関心が高いとは言えない。 <p>□言語活動に関する成果</p> <p>実験レポートや考察など、しっかり書ける生徒が多い。</p> <p>■言語活動に関する課題</p> <p>レポートなどを文章で書くことはできるが、それを授業内で発表するとすると、説得力のある説明ができない生徒も多い。</p>	<p>●</p> <p>・3年内容の復習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年の復習を今以上に推進させる。 ・理科と日常の連携 <p>■発表できるようにしたり、議論が深まるようにする。</p>	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年内容の小テストも適宜、実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年の復習については、より細分化した小テスト計画を早めに示し、計画的に進められるようにする。 ・理科で学習した内容を日常生活に結び付ける話題を積極的に扱う。 <p>■</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験データを科学的に分析し、アクティブラーニングを進められるような課題を設定する。 ・議論しながら進められる授業を増やす。その際、発言を増やす。

教科名(英語)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>1学期の評定において、4つの観点の平均達成率をみると、 ○関心・意欲・態度の観点では、平均達成率が75%を越えている。 ●表現は69%である。 ○理解は90%、知識理解は75%である。</p> <p>○1学期期末考査の結果(達成率平均)は、理解の観点は90%を越えているが、知識理解は75%である。</p> <p>●今回の期末考査の範囲は、小学校時代の既習事項の復習を含んでいる。今後学習する範囲で達成率を維持することが課題である。</p> <p>●表現の観点は69%で最も低い値である。</p> <p>■英文を正しく書くことがまだ定着していない。英文を正確に書く力をつけることで、表現と知識理解ともに、向上させることを目指す。</p>	<p>○さらに関心を高め、意欲を引き出せるように、工夫した授業をつくる。</p> <p>●英語を読む、聞く、書く、話すという活動をバランスよく行う。</p> <p>●単元テストも定期考査と同等に準備をして臨むよう意識を持たせ、知識理解の定着を図る。 ●2、3学期にはパフォーマンステストを行う。</p> <p>■英文を正確に書くことを意識させ、書く力の定着を図る。</p>	<p>○ICT機器を利用することで、興味や関心を引き出すような題材を取り入れ、学習意欲を向上させる。</p> <p>●表現と知識理解の観点は、評定と期末考査の達成率がほぼ同じである。基本本文を活用した復習活動で基礎基本の定着をさせ、単元テストなどの小テストの達成率を向上させる。</p> <p>●密にならないよう、斜めのペアを組むなどして発話量を増やす工夫を取り入れ、話す活動において生徒が主体的に活動できるようにする。</p> <p>■表現の能力を高めるためには、話す活動の後には正しく書く活動をし、定着を図る。 ■授業中のワークシートやワークなどの提出物を通して、正しく英文を書く習慣が身に付くように個に応じた、きめ細かな指導を行う。</p>
2年	<p>昨年度学年末と今年度1学期評定とを比較すると、 ○意欲・関心の観点において、平均達成率が58%から75%に増えており、提出物や授業態度等に改善が見られた。 ●知識の観点では、平均達成率が78%から71%に減っており、臨時休業期間中に英単語や重要文をコツコツと勉強する習慣がつかなくなったためと考えられる。</p> <p>■表現の観点において、平均達成率が49%から55%に増えており、全体として作文力がついてきていることが伺われるが、さらなる向上を目指す。 ■理解の観点では平均達成率は67%から64%に減っているが、今年度1学期定期考査の長文問題を難しくしたためと考えられる。</p>	<p>○今後も生徒の意欲を引き出す授業づくりをする。</p> <p>●単元テストも定期考査と同等にしっかり準備をして臨むよう意識づけする。</p> <p>■自然な英語を聞いたり読んだりする機会をしっかりと作る。 ■長い文でも諦めずに読み進める力をつける。</p>	<p>○生徒の興味関心に寄り添った教材作りを心掛ける。また、生徒のリクエストに応え、うまく既習事項と結び付けた授業を展開させる。 ●語句や重要文を使ったアクティビティによって、授業内で語句を練習する時間を確保する。</p> <p>■ALTに母国での生活等、様々なエッセーを書いてもらい、教材とする。 ■長文問題の題材に、生徒が興味をもちそうなものを厳選し、段階を追って読む指導をする。</p>
3年	<p>昨年度の3学期と今年度1学期の評定とを比較すると、 ○理解の観点において、平均達成率が59%から72%に上がっており、英語を読んで理解する力と聞いて理解する力の向上が見られる。 ●表現の観点においては60%と4観点の中で最も低い値となっている。 一学期は授業で友達と話す活動を自粛し、パフォーマンステストを実施することができなかったため、今後の対応を考える必要がある。</p> <p>2学年学年末考査と3学年1学期中間考査とを比較すると、 □どの観点の平均達成率も10ポイント以上向上している。休校期間が長かったため試験範囲が狭く、的を絞って学習することができたことが理由と考えられる。</p> <p>■与えられたテーマについて自分のことを表現する活動において、過去に学習した表現や文法事項を正しく使えていない生徒が多く、数多く書くこととする意欲はあっても正しく書く力が不十分である。</p>	<p>○入試の長文読解に向けて演習を始める。</p> <p>●2学期と3学期はパフォーマンステストを実施する。</p> <p>□ゆとりをもって試験勉強に取り組めるよう、家庭学習の手立てを示す。</p> <p>■密を避けつつ、生徒同士で話す活動を実施する。</p>	<p>○入試問題に慣れ、読み取りのコツを掴めるよう、2学期から長文読み取りドリルを活用した帯活動を行う。</p> <p>●ALTを活用し、日頃の表現活動の集大成となるパフォーマンステスト(スピーチ・インタビューテスト)を実施する。</p> <p>□試験範囲が広がる2学期も、事前にゆとりをもって学習のまとめができるよう、計画的に家庭学習を進めるガイドラインを授業のたびに示す。単元のまとめテストへの学習も授業内の帯活動に取り入れ、定期考査につなげる。</p> <p>■話す活動と書く活動とを組み合わせ、身近な題材について表現するアクティビティを増やし、表現力の向上につなげる。間違いを恐れずに表現することの大切さは維持しつつ、正確に表現する手立てとして、既習事項を繰り返し振り返り使う場面を授業内で確保する。</p>

教科名(音楽)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○音楽活動を楽しみながら素直に臆することなく表現することができる生徒が多い。</p> <p>●「学習記録」のまとめを書く時間が長引く。</p> <p>□鑑賞の授業では「音楽の要素」(知覚)と感じたこと(感受)を結び付けて自分なりにまとめながら書くことができた。</p> <p>■コロナ対策等で話し合い活動や、発表の場がとりにくかった。</p>	<p>○ふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。</p> <p>●書く時間を増やし、さらに時間を確保する。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」について理解を深め、味わって聴くよう指導する。</p> <p>■グループ学習の場で深め合い、主体的・協働的活動を取り入れる。</p>	<p>○範奏・範唱等を通して具体的な方法を示すとともに、歌唱では腹式呼吸・息の練習等ルーティン化するなどして、定着するよう粘り強く指導していく。</p> <p>●何に注目して書けばよいか明確に示すとともに、発達段階に応じてさらに書く時間を確保する。また、モデルとなる友達の「学習記録」を教室内に掲示し、参考にさせる。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」や「音楽の構造」について図示するなどして詳しく説明するとともに曲の「紹介文」の書き方の具体例を示した。</p> <p>■社会情勢をみて「喚気」や「間隔を空ける」等の対策を十分講じながら、感じたことや考えを発表する場を持ち様々な意見・見方・考え方があることを学び、視野を広げさせる。</p>
2年	<p>○授業規律を守り、積極的に授業に取り組む生徒の姿が見られた。</p> <p>●合唱パート練習にあまり集中できないグループがある。</p> <p>□鑑賞の授業では「音楽の要素」(知覚)と感じたこと(感受)を結び付け、曲や演奏に対する評価を自分なりにまとめながら書くことができた。</p> <p>■コロナ対策等で話し合い活動や、発表の場がとりにくかった。</p>	<p>○自ら学び、考えて行動できるよう指導する。</p> <p>●主体的・協働的に活動する態度を養う。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」について理解を深め、曲や演奏について評価しながら味わって聴くよう指導する。</p> <p>■グループ学習の場で深め合い、主体的・協働的活動を取り入れる。</p>	<p>○一人ひとりの成長をみとり評価し、安心して表現活動できる雰囲気を作る。</p> <p>●リーダーを育成し、具体的にルールを明確にししながら互いにクラスの一員として貢献できるよう指導していく。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」や「音楽の構造」について図示するなどして詳しく説明し、曲や演奏についての着眼点と「紹介文」の書き方の具体例を示した。</p> <p>■社会情勢をみて「喚気」や「間隔を空ける」等の対策を十分講じながら、感じたことや考えを発表する場を持ち様々な意見・見方・考え方があることを学び、視野を広げさせる。</p>
3年	<p>○期末考査の学年平均点は84.4であった。</p> <p>●積極的に表現しきれない生徒がいる。</p> <p>□鑑賞の授業では「音楽の要素」(知覚)と感じたこと(感受)を結び付け、曲や演奏に対する評価を自分なりにまとめながら詳しく書くことができた。</p> <p>■コロナ対策等で話し合い活動や、発表の場がとりにくかった。</p>	<p>○授業内容が専門的になっても、知識・理解の定着を図り、理解を深める指導をする。</p> <p>●音楽活動を楽しみながら親しんでいく態度を養う。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」について理解を深め、曲や演奏について詳しく評価しながら味わって聴くよう指導する。</p> <p>■グループ学習の場で深め合い、主体的・協働的活動を取り入れる。</p>	<p>○授業内容が専門的になっていくが、分かりやすい説明を心掛け、楽しく覚えるコツを示す等、知識・理解の定着が深まる工夫をし、それを活用する力を育てる。</p> <p>●一人ひとりの個性や習熟度を把握し、表現方法を一緒に工夫し成長を促し自己肯定感が高まるよう指導していく。</p> <p>□「音楽を形づくっている要素」や「音楽の構造」について図示するなどして詳しく説明する。また、曲や演奏についての着眼点を持たせ、「紹介文」の書き方の具体例を示しながら指導する。</p> <p>■「喚気」や「間隔を空ける」等の対策を十分講じながら感じたことや考えを発表する場を持ち様々な意見・見方・考え方があることを学び視野を広げさせる。</p>

教科名(美術)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○一学期の授業観察ではどの課題にも意欲的に取り組もうとする態度が見られ、生徒の関心・意欲を引き出す工夫をした授業の成果といえる。生徒同士の相互鑑賞によって客観的に自分の学習の振り返りを行ったことで、生徒の自分の課題に気付く力を高めるとともに、個に応じた指導につなげることができた。</p> <p>●作品制作にかかる時間に個人差が大きく、次の課題へ移るタイミングは工夫が必要である。また、制作が遅れがちな生徒は振り返りの時間が十分に確保できていない。</p> <p>□感染症対策によって話し合い活動の時間が確保できなかったため、作品について書く活動に重点を置いた指導を行い、自己の振り返りや感じたことや考えたことを書く活動を充実させることができた。</p> <p>■授業の振り返りや鑑賞作品について書くときに、気が付いたことを具体的に書くことができる生徒が一方で、時間をかけても記述できない生徒もいる。</p>	<p>●制作進度の調整を工夫し、見通しをもつことが苦手な生徒への指導を充実させる。</p> <p>■作者の心情や作品から想像したことなど、美術作品を見る視点を増やし、自分の考えたことを根拠を示して書く力を高める。</p>	<p>●制作が遅れがちな生徒には、毎回の授業で進捗状況を確認し、常に見通しをもたせることを徹底する。具体的な手立てを支援し、段取りについても理解できるようにする。制作が進んでいる生徒には、発展的な課題を個別に準備して、意欲的な取り組みを継続させる。</p> <p>■文章を書くための三段論法を理解させるとともに、作品から読み取れることの説明だけでなく、作者の心情を考えたたり、作品から想像したことを根拠をもって書くための指導を徹底する。</p>
2年	<p>○単元の終わりに学習を振り返る時間を確保し、新しい単元の導入時にも学んだことを復習することで、学習のつながりや関連性を確認させることができた。</p> <p>●学習発表会などの作品発表の機会が失われてしまったため、相互鑑賞の機会を確保する必要がある。また、基礎的な知識や技能について生徒の能力には開きがあるため、視覚的に理解できる指導方法について工夫が必要である。</p> <p>□美術作品を見て自分が感じたことや考えたことをもとに意見を共有し、協働的な学びを通して造形的な見方や考え方を広げることができた。</p> <p>■造形的な見方や考え方を働かせる場面を増やすことはできたが、自分が感じたことや考えたことについて理由を考察したり、作品のよさや美しさについて深く味わう段階には至っていない。</p>	<p>●ICT機器を活用し、学習を振り返るための相互鑑賞や、基礎的な知識・技能の定着を図る。</p> <p>■対話的な活動を通して造形的な見方や考え方を働かせて、対象のよさや美しさを深く味わうことができるようにする。</p>	<p>●新たに導入されたプロジェクターを活用して用具の扱い方や美術作品の細部を大画面で示すことで、基礎的な知識・技能の理解を促す。また、生徒の作品をタブレットで保存し、ICT機器を用いた相互鑑賞を充実させる。</p> <p>■対話による意見交換や発表活動の学習時間を確保し、美術作品などに対する見方や感じ方について深める時間を充実させる。また鑑賞活動においては、美術館と連携して実物の美術作品を鑑賞し、作品のよさや美しさを味わう機会を設ける。</p>
3年	<p>○定期考査の平均点は70点台を維持しており、集中して授業に取り組む様子が見られる。作品制作にこだわりを持って取り組む生徒が多く、独自の発想で作品を生み出したいという意欲が高い。</p> <p>●授業の振り返りシートでは版画の授業で表現の工夫を試みたものの、工夫の方法に苦労していた生徒が多かった。このことから、試行錯誤して自分のアイデアを効果的に伝える表現を追求したり、作品のよさや美しさを高める力に課題がある。</p> <p>□授業記録カードやワークシートにおいて、授業で学んだことをもとに自分が考えたことを記述する力が高まった。</p> <p>■鑑賞のワークシートにおいて、自分が感じたことを根拠をもって説明したり、考えたことをまとめる力が不十分である。</p>	<p>●自分の構想をもとに創意工夫して表すために、自分が構想した内容を整理して重点的に取り組んだり、強調するための表現方法を身に付ける。</p> <p>■自分の考えたことの根拠や考えたことを整理できるようにワークシートを工夫し、自分の言葉で考えをまとめる発表活動や対話的な学習を効果的に取り入れる。</p>	<p>●自分のねらいを効果的に表現している生徒の作品を積極的に紹介して生徒に気付きを与えるとともに、自分が構想したことを効果的に表す方法について意見交換や試行錯誤を繰り返す機会を充実させる。</p> <p>■自分の考えたことの根拠や考えたことを整理できるようにワークシートを工夫し、自分の言葉で考えをまとめる発表活動や対話的な学習を効果的に取り入れる。</p>

教科名(保健体育)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○毎時間生徒が意欲的に活動に取り組んでおり、見学や欠席の生徒がほとんどいない。</p> <p>●運動量の確保は概ね達成できているが、課題解決の為の思考判断がまだ養われていない。課題を理解し授業に取り組むという点では、今後の課題である。</p> <p>□男女とも、グループ学習等を取り入れ、生徒同士がアドバイスし合う授業展開は定着している。また、学習カードでも文章としてまとめて、記述することに取り組ませている。</p> <p>■全体の前で発言することや、アドバイスをもとに、深い学びにつながる活動が少ない。</p>	<p>○授業規律の向上</p> <p>●基礎体力の向上、運動量の確保</p> <p>□学習を通じて、自ら課題設定、課題解決の方法を見出し、自主的に取り組ませる</p> <p>■グループ学習を多くし、話し合う機会を増やす。</p>	<p>○時間を守る、忘れ物をしない意識を高めさせるとともに、生徒に定着させる指導の工夫と徹底をする。</p> <p>●授業内での運動量を確保できる授業展開を目指すとともに、準備運動等では効率よく基礎体力の向上につながる運動を取り入れる。</p> <p>□自らの課題設定をするためのヒントを焦点を絞って提示すること、解決につながる手段をアドバイスできる声掛けを心がける。</p> <p>■グループで取り組む課題を多く設定し、課題解決の為の方策やアドバイスを話し合う時間を毎回設けていく。</p>
2年	<p>○授業規律が定着してきており、時間を意識して授業がスタートできることや、体育着の忘れによる見学の生徒も少なくなった。また、積極的に授業に参加することや、課題解決に向けた授業の取り組み方が実践できる生徒が多くなった。</p> <p>●運動する量は確保できるが、課題を解決するための取り組み方という面では、解決に向け工夫した運動方法を実践することに課題がある。</p> <p>□1年生のときと比較すると、学習カードの記述がしっかりと専門的な表現を活用して表現できるようになってきている。また、仲間同士のアドバイスも、具体的に伝えられるようになっている。</p> <p>■対人的な言語活動として、仲間にアドバイスができる生徒が増えているが、まだ受け身になり、自分から発信できない生徒がいる。また、自己のふり返りの言語活動として、学習カードに記入する内容が不十分な生徒が、特に男子に多いことが課題である。</p>	<p>○課題解決を意識した運動への取り組み</p> <p>●一人一人の課題の違いを尊重できる言語活動</p> <p>□記述内容の良い学習カードを見本として提示</p> <p>■男子は、学習カードの提出意識を高める</p>	<p>○授業の最後に、本時のめあてと成果の発表、確認できる機会を設け、一人一人がまとめをしっかりとできたと思える終わり方を毎回していく授業展開を目指す。</p> <p>●グループ活動による教え合いのような場面設定を増やし、個々の課題に対する挑戦を認め合い、そのことを理解した状態で互いに助言できる力を身に付けさせていく。</p> <p>□課題解決のヒントになるような助言を、明確に示し、生徒が意識しやすい授業展開にする。</p> <p>■学習カードの記入時間の確保や、提出〆切を早めに示すことで見通しをもって、取り組めるようにする。</p>
3年	<p>○男女ともに意欲をもって取り組むことができている。とくに女子においては90%近くの生徒が「関心・意欲・態度」の観点別評価でAになっている。</p> <p>●男子は、思考力・判断力と知識・理解の観点の評価が低い傾向がある。女子においては他の評価の観点に比べると、技能が低い傾向がある。</p> <p>□意見交換の場では、以前から言語活動として活発にできていた。学習カードの記入内容なども、より思考した内容を記述することに対して、応えられる生徒が増加してきている。</p> <p>■学習カードにおいても、ただ記述しているだけになってしまい、その意図を理解していない傾向が見られる。なぜ、表現する必要があるか理解させていくことが課題である。</p>	<p>○提出課題に対しても意欲を高めさせる</p> <p>●男子→技能以外の部分も高めさせる 女子→技能で目指すべきイメージを明らかにする</p> <p>□思考の深まる例の提示</p> <p>■段階的に指導する場面を増やす</p>	<p>○声かけを工夫することと、提出〆切を早めに示すことで見通しをもって、取り組めるようにする。</p> <p>●知識の確認テストを定期考査以外にも行う。学習カードに記載したり、グループでの話し合い・伝えあいを通して、言語活動の充実を図り、思考した内容をわかりやすく伝えられるようにする。</p> <p>□記入例や他の生徒の良い例を示すことで、言語を正しく効果的に活用できる生徒を増やしていく。</p> <p>■学習カードの提出する期限を小さく区切り、単元の途中であっても表現方法の指導をすることで、言語活動を活性化させる。</p>

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○昨年度課題であった、講義形式の授業では作業の途中に調べる活動や意見を出し合い考えさせる授業づくりを行った。集中力が途切れる前に10分程度活動を行うことで、再び授業に集中する機会を作ることができた。</p> <p>●作業時間を確保のため、説明を簡潔に行いスモールステップでの活動を考えた。しかし、進捗に差が出てしまい追加の課題や、活動が進まない生徒に対し不十分であった。</p> <p>□生徒自身が主体的に考えられる発問を考え、発表させることで言語活動をおこなった。</p> <p>■1時間でどこまで言語活動と作業時間のバランスをとるか考える余地がある。</p>	<p>●発問の工夫を行い、授業の進捗に合わせてどのような声をかけたり、作業を行うか。</p> <p>■一時間の見通しを持ち、言語活動と実技のバランスをとる。</p>	<p>●ねらいを示すとともに、作業時間を明確にすることで、生徒が見通しを持った活動を行えるようにする。特に、一時間にいくつかの作業が行われるときは、区切りをタイマーなどで作る。</p> <p>●技術室では4人班で活動を行うので、作業を協力して行い、時間を確保する。</p> <p>■講義形式の授業では、生徒が興味を持てるような発問を考える。また、ワークシートを活用し、言語化を行うことで、発表が苦手な生徒にも考えを書かせる場を作る。</p>
2年	<p>○ねらいを毎時間示すことで、作業の目的について考えさせることができた。授業では、作業の時間を確保するため、説明を簡潔にすることや、ワークシートに載せることで進捗が離れることがないようにした。</p> <p>●授業の終わりに振り返りの時間をとっているが、作業に時間がかかりすぎると時間の確保が難しくなってしまう。片づけを含めて10分の時間をとり、ねらいとまとめの一体化を明確にすることが課題として挙げられる。</p> <p>□身近な問題や課題から、ねらいの提示を行うことができ、そのために言語活動を多く取り入れ、友達がどのように考えているかとらえる機会を作ることができた。</p> <p>■作業時間の確保や、座学を進めるため言語活動の時間がどうしても少なく</p>	<p>●一時間の見通しを持ち、ねらいに向けて活動を行う。</p> <p>■技術における言語活動と実技のバランスをとる。</p>	<p>●毎時間の授業では継続してねらいを提示する。また、振り返りを行えるようにワークシートに記入を行い、時間の確保をする。</p> <p>●講義形式の授業でも、生徒の問いや解答から授業をつくり、さらに興味を持って学習に臨めるような授業づくりをおこなう。</p> <p>■生物育成に関する技術では、作業時間が毎回異なるため、それに合わせた言語活動や作業の時間を作る。</p>
3年	<p>○一学期は授業数が少なく、一時間に対する観点を増やした授業を行ったが、活動が変わる場面で集中させることができた。また、実技と講義のバランスをとり、一時間のねらいに即した授業を行った。</p> <p>●学習時間が限られているため、振り返りの時間が取れなかった。ねらいに対して、どの程度達成できたか授業中の取り組みから判断をした。</p> <p>□情報の活用では、それぞれの意見を持ちながら言語活動を行った。ワークシートに記述の時間を確保し、言語活動の内容を絞りながら学習を進めることができた。</p> <p>■発言等は限られた生徒しか行うことができなかつた。意見の共有はできていたので、他者に発信できる機会をとりたい。</p>	<p>●ねらいとまとめの一体化を行う。また、一時間の振り返りを行う。</p> <p>■実習を多く取り入れ、知識と技能の連携をとる。そこで得た知識を他者と共有する。</p>	<p>●ワークシートは教科書を中心に、一時間にどのような学習を行うのか見やすいように作る。また、実習をする場合のワークシートでは必要な操作を示し、口頭や黒板だけでなく自身で活動が行えるような手立てをする。</p> <p>●ねらいを示すことは継続して行う。また、授業の最後にはどこがポイントであるかももう一度振り返りの時間をとる。</p> <p>■ワークシートに記入の時間をとり、自信をもって発言できる機会を作る。</p>

令和2年度 授業改善推進プラン

府中市立浅間中学校

教科名(家庭)

○成果 ●課題 □言語活動に関する成果 ■言語活動に関する課題

	授業分析	授業改善の重点	改善のための方策
1年	<p>○その日の課題を板書して明確にし課題が終わらなければ、放課後補習という授業の進め方を行い、出来るだけ個に応じた指導を行っている。生徒は、授業に前向きに取り組もうと意欲的な姿勢が身に付いている。</p> <p>□製作以外の授業では活発な発言が見られ、グループワーク時には課題に対して生徒同士意見交換が活発に行え、全体に向けて発表する機会をもてた。発表者は皆に分かりやすく伝えようと努力する姿勢が見受けられた。</p>	<p>○さらに、授業内容の検討と指導方法の工夫。振り返り・まとめを重点的に行う。また、授業のまとめの時間の確保と分かりやすくする工夫をする。</p> <p>□グループワークの指導方法の工夫と発表者を輪番制にする。</p>	<p>○普通教室での講義中心の授業において、導入からまとめまで、流れを分かりやすく、学習目標を明記し授業最後にまとめの時間を確保する。まとめの時間を確保することに加え、ワークシートに記入する授業者のコメントに加えて、生徒に評価の値を知らせていくことで、生徒の知識理解の程度を知らせ、生徒が努力目標を見つけられるようにする。実習班編成にはクラスの様子・生徒の意見を取り入れ、多くの生徒が快適に実習できる班編成を行う。各実習で役割分担を考えるように指導し、協調性や責任感を養う。</p> <p>□実習以外のグループ活動では4人の少人数での活動にして、各自の考えを必ずグループに伝え、発表者を輪番制にして、考えをまとめ・発表する力を養う。</p>
2年	<p>○作品製作を中心とした授業展開を行っている。作品も中2年生としては高度なものを取り組んでいるが、授業に前向きに取り組もうと意欲的な生徒が多く、作品の完成が楽しみである。</p> <p>●作業時間に個人差がある。</p> <p>□製作以外の授業では活発な発言が見られ、グループワーク時には課題に対して生徒同士意見交換が活発に行え、全体に向けて発表する機会をもてた。発表者は皆に分かりやすく伝えようと努力する姿勢が見受けられた。</p> <p>■分かりやすく発表することができない生徒がいる。</p>	<p>○さらに、授業内容の検討と指導方法の工夫。振り返り・まとめを重点的に行う。</p> <p>●作業条件の工夫、作業能力への対応</p> <p>□作品制作から調理実習になる為、グループ活動を円滑に行うための工夫が必要となる。</p> <p>■グループワークの指導方法の工夫と発表者を輪番制にする。</p>	<p>○普通教室での講義中心の授業において、導入からまとめまで、流れを分かりやすく、学習目標を明記し授業最後にまとめの時間を確保する。まとめの時間を確保することに加え、ワークシートに記入する授業者のコメントに加えて、生徒に評価の値を知らせていくことで、生徒の知識理解の程度を知らせ、生徒が努力目標を見つけられるようにする。</p> <p>●40人体制の授業はミシンの台数や作業スペースに限りがあるため、放課後の補充教室で補う。</p> <p>□実習班編成にはクラスの様子・生徒の意見を取り入れ、多くの生徒が快適に実習できる班編成を行う。各実習で役割分担を考えるように指導し、協調性や責任感を養う。</p> <p>■実習以外のグループ活動では4人の少人数での活動にして、各自の考えを必ずグループに伝え、発表者を輪番制にして、考えをまとめ・発表する力を養う。</p>
3年	<p>●技術と家庭科の授業が週ごとに代わる為、指導内容を十分に深められていない状況である。授業時間の確保・授業内容を精選していく。</p> <p>□授業のまとめなどのワークシートを通じて、自分の意見を意欲的に表現できる生徒が多い。</p> <p>■知識理解の講義を中心とした授業や作品の制作時間が主で、生徒相互で学びを深める活動が行えていない。</p>	<p>●授業の組み立て・指導内容の工夫、課題解決学習の内容を検討する。</p> <p>■製作終了後には、言語活動の充実と課題解決学習の充実を図る。</p>	<p>●生徒の理解力をワークシートで確認し、コメント・評価を記入し、次回への展望をもたせる。</p> <p>■持続可能な開発目標(SDGs)についてグループワークを通じて生徒相互間の理解を深め実践できる行動力を養う。 ・発表時には、生徒相互に考えさせる為、討論の形態も取り入れ課題解決のための実践につなげられるようにする。</p>